

港湾振興便り



2011. 9
第53号

:
目 次
:~

- 1 ポートエッセイ「日本港湾振興団体連合会会長退任にあたって」
～日本港湾振興団体連合会会長 平松 守彦～
- 2 トピック
 - ◆ 「がんばろう！日本 第一回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in三原」が
開催されました (三原市港湾課)
 - ◆ 復元北前船「みちのく丸」が三国港に寄港！
(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)
 - ◆ 水理模型実験による別府港海岸(上人ヶ浜地区)整備計画策定
(九州地方整備局 下関港湾空港技術調査事務所)
 - ◆ 岩国港築港200年記念イベント盛大に開催！ (岩国市産業振興部水産振興課)
 - ◆ 八甲田丸 機械遺産認定!! (東北地方整備局 青森港湾事務所)

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*~

- 1 ポートエッセイ「日本港湾振興団体連合会会長退任にあたって」
～日本港湾振興団体連合会会長 平松 守彦～

::*:*:*:*:*~

2003年、栢原港湾協会理事長(当時)より日本港湾振興団体連合会会長になってくれないかとすすめられた。
通産省出身で大分県知事在任中、大分・鶴崎臨海工業地帯造成が県政の最重点プロジェクトとして浮上した。
大分・鶴崎両市の海面を埋め立て、新日鐵・昭和電工・九州石油などの立地によって当時、京浜・名古屋・阪神・北九州の四大工業地帯、岡山工業地帯と並んで新しい「臨海工業地帯」が誕生した。東の「鹿島」、西の「大分」と日本の高度経済成長時代を象徴する工業地帯が次々と誕生した。当時、工業用水道事業を担当していた私は運輸省の東(あづま)計画課長と共に「臨海工業地帯造成公団」構想をブチ上げた。爾来、通産省から大分県知事となり臨海工業地帯を全国的に造成する「新産業都市法」の成立を見た。こんな経緯もあって知事退任後、「日本港湾振興団体連合会会長」に推され今日に至った。
私の通産省・大分県知事時代を通じ港湾整備の重要性が今日ほど強く要請されている時はない。新しい会長の下で日本港湾振興団体連合会の更なる発展を期すること切なるものがある。

*:

2 トピック

*:

◆「がんばろう！日本 第一回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in三原」が 開催されました

(三原市港湾課)

「届けよう希望の光・夢・未来」のスローガンのもと、東日本大震災復興支援イベントとして、「がんばろう！日本 第一回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in三原」が、7月30日・31日、広島県三原市で開催されました。

この大会は、北は北海道稚内から西は九州唐津まで全国から18の「みなとオアシス」が各地域の「海のグルメ（Sea級グルメ）」等を出店するもので、地元からも地元特産グルメや特産品の販売を行い、1万3千人が来場してグルメに舌鼓を打ちました。

ステージイベントでは、福島県いわき市から参加した高校生によるフラダンスや、地元三原市の伝統芸能「三原やっさ踊り」などの披露が行われ、場を盛り上げました。

また会場では、被災地の一日でも早い復興を願い、東日本大震災の復興支援ブースを開設し、被災地の物産品販売や被災地支援活動のパネル展を行いました。

さらに、来場者の投票により行われたSea級グルメコンテストは、みなとオアシス宇野の「たまの温玉めし」が優勝し、準優勝はみなとオアシス瀬戸田の「たこチヂミ」、第3位は八幡浜港みなとオアシスの「じゃこカツ」でした。

<http://www.cgr-minato-oasis.jp/gourmet/>



多くの来場者で賑わう会場



「フラダンス」いわき市フラガール



優勝「たまの温玉めし」
みなとオアシス宇野



受賞者を囲んで記念撮影

◆ 復元北前船「みちのく丸」が三国港に寄港！

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

8月5日(金)、東日本大震災復興支援事業「北前船日本海文化交流」の一環として、復元北前船「みちのく丸」が福井県坂井市にある九頭竜川河口の三国港(福井港三国港地区)に寄港しました。

これに併せて、坂井市制施行5周年記念事業として、坂井市・北前船交流三國湊実行委員会の主催による歓迎イベントが開催されました。

当日は、入港に合わせ午前8時から遊覧船3隻(乗船者約150名)によって、福井新港の見学航海とともに「みちのく丸」を海上から出迎え、岸壁では三国海洋少年団の手旗信号による歓迎メッセージの交信や大勢の市民が出迎えました。

入港歓迎セレモニーの後、午前10時から午後9時まで一般公開が行われ、大勢の市民が訪れ、当時を思い起こし北前船の船内に興味を示していました。また、えちぜん鉄道三国港駅に停車している電車の中では、北前船ゆかりの資料展示や国指定重要文化財である三国港突堤(エッセル堤)築造工事の様子や当時の写真、福井港のあゆみなどのパネル展示が行われ、物産コーナーでは多くの買い物客でにぎわっていました。

三国温泉ゆあぽーとでは、「北前船フォーラム in 三國」と称して北前船の三国港寄港にあわせ、明治三大築港に数えられる三国港、^{みづみ}三角港(熊本県宇城市)、^{のびる}野蒜港(宮城県東松島市)の代表者が参加し交流会が開催されました。この中では、北前船交易によってもたらされた三國湊の歴史的資産を多角的な視点で見つめ直し、それを足掛かりとした今後の北前船寄港地との海際連携の再生、地域間交流、地域活性化の糸口を探るなどの意見交換が行われたほか、先の東日本大震災で甚大な被害を受けた野蒜港は、「今でもがれきが散乱するなど復興の見通しは立っていない」など震災後の深刻な現状が報告されました。

日没後、大震災で被災した野蒜港復興のチャリティとして、九頭竜川河口のエッセル堤及び対岸を2200本のろうそくで照らすキャンドルライトアップが行われ、キャンドルのゆらめく炎にエッセル堤は幻想的に彩られていました。

「みちのく丸」は、翌日、次の寄港地である金沢港に向けて出港しました。

北陸管内では、金沢港(8/6~9)・伏木富山港(8/10~14)・新潟港(8/15~19)に寄港しながら日本海を北上し、青森港に8月29日無事帰港しました。



復元北前船「みちのく丸」が寄港



車両を利用したパネル展(三国港駅)



エッセル堤のキャンドルライトアップ



往時が偲ばれる展帆航行

◆ 水理模型実験による別府港海岸(上人ヶ浜地区)整備計画策定

(九州地方整備局 下関港湾空港技術調査事務所)

別府港海岸(上人ヶ浜地区)の高潮対策として計画されている海岸保全施設の整備計画を検討するための水理模型実験を9月上旬から11月下旬に実施いたします。

実験は、山口県下関市にある、西日本では最大の下関港湾空港技術調査事務所、港湾空港水理実験センターにある平面水槽(L61.0m×B48.5m、H1.5m)を用い、現地地形や整備予定施設を1/30に縮小した模型を配置し、高波浪時の護岸越波流量等の測定を行います。

整備計画案としてあげられている潜堤及び既設護岸改良などの数ケースの案について実験を行い、護岸の越波流量抑制に効果のある計画案をまとめていきます。



港湾空港水理実験センター

◆ 岩国港築港200年記念イベント盛大に開催！

(岩国市産業振興部水産振興課)

7月22日～26日にかけて、岩国港周辺で築港200年を記念したイベントを行いました。台風の影響で、客船「にっぽん丸」の寄港は中止となりましたが、帆船「日本丸」や護衛艦「ありあけ」・練習船「大島丸」は予定どおり入港しました。

『太平洋の白鳥』と呼ばれる帆船「日本丸」は2002年以来9年ぶり、護衛艦「ありあけ」は初めての寄港となり、期間中の23日には記念式典が行われ、「日本丸」のセ

イルドリルや「ありあけ」の一般公開、さらには海上自衛隊による展示飛行などが実施されました。

同日夜には、「岩国港みなと祭花火大会」が開催され2千発の花火も築港200年を祝福、多くの来場者に喜んでいただきました。



護衛艦「ありあけ」歓迎セレモニー



帆船「日本丸」歓迎セレモニー

◆ 八甲田丸 機械遺産認定!!

(東北地方整備局 青森港湾事務所)

青森港で係留展示されている八甲田丸が8月に今年度の機械遺産として日本機械学会により認定されました。技術面で歴史的な意義があり、次世代に伝えるべき文化的遺産として、函館港の摩周丸、それぞれの港に現存する可動橋と一体での認定です。青函連絡船の廃止にあたり市民の保存を求める熱心な活動により現在の八甲田丸があり、今回の認定は市民の想いが評価されたと言えます。新幹線開業後も多くの観光客が八甲田丸を訪れ、地域の賑わいに貢献していますが、船体老朽化の問題もあります。

現在八甲田丸を中心とした青森港ウォーターフロント地区の今後について検討する協議会が開かれています。市民にとって八甲田丸は青森が港町から発展した歴史を伝えるかけがえのない財産であるとともに、青森駅周辺に新たにできた観光施設と共に地域活性化に役立つ施設であることもまた求められているのです。



機械遺産八甲田丸及び可動橋



八甲田丸を学ぶ子供たち

